

	<h1>志木三小だより</h1> <p>学校教育目標</p> <p>賢く 優しく 逞しく</p>	志木市立志木第三小学校
		平成30年度 第3号
		平成30年6月1日
		志木市柏町3丁目2番1号
		TEL 048 - 471 - 1062
		児童数6月1日現在 589名



頑張れ (がんばれ)

校長 可知 良之

人から元気や勇気をもらったり励まされたりする言葉はたくさんありますが、最もシンプルで私が教諭時代好んで使っていた言葉は「頑張れ (がんばれ)」です。通知表の所見欄にも良かったことや改めてほしいことなど書いたあとには必ず「頑張ってください。」と手書きで書いたものです。頑張るとは困難に耐え、努力してやり通すことですが、歴史は古く江戸時代には既に使われていたといいます。「頑張る」の語源には二通りの説があって、一つは「眼張る (がんはる)」が「頑張る」になった説で、「目を見開いて意識を集中する」から「ある一定の状態を継続する」になり、困難をはねのけ、我慢してやり通すとなったといいます。もう一つの説は自分の考えを押し通す「我を張る」から転じ、自分の気持ちや考えをしっかりと持ち困難に打ち勝って事を成し遂げるという意味になったといいます。前者の「眼張る」には忍耐強さを感じますし、後者の「我張る」には活力ある逞しさを感じます。

”「がんばって」この1秒ほどの言葉に、勇気がよみがえってくることもある。”

こう言ったのは、漫画家で広告マンだった小泉吉弘さんです。これは、小泉さんが作られた「1秒の言葉」という詩の一節で、CMでも使われたそうですが、これまでわずか二度しか放送されたことがない幻のCMです。一流のアスリートがもうだめかと思ったその時に、観客の中から聞こえてくる「頑張れ」のひと言に奮い立たされメ

ダルを手にすることができたという話をよく聞きます。「頑張れ」には不思議な力があるのかもしれない。

ところが、最近特に小学校では、この「頑張れ」は使わない方が良いという考え方があります。自分の心や体をうまくコントロールできない小学生は、限度を超えて頑張りが過ぎてしまうことがあるからです。また、精神的に追い詰められている子供に「頑張れ」と言うのは酷であるという考え方もあります。こんなに頑張っているのにこれ以上頑張れないということです。では、なんと云えばよいかというと「その調子、その調子」と言うのだそうです。私の主観ですが、どうも「頑張れ」とは異なったニュアンスに聞こえてしまいます。「頑張れ」程、ストレートで力強い言葉は他にはないのかもしれない。

”雨にも負けず 風にも負けず 雪にも夏の暑さにも負けぬ 丈夫な体をもち”と言ったのは宮沢賢治ですが、何事にも我慢してやり通す気持ちの強さと丈夫な体でありたいという願いが込められている気がします。

これからじめじめとした梅雨の季節になります。蒸し暑さにも負けず、真夏の日照りのような暑さにも負けず頑張っている子供たちに「頑張れ！」の一言をかけてあげたいと思います。

参考 「頑張る」における構造と変化 川岸克己
安田女子大学紀要39 2011